

協働パイロット事業 審査結果

1. 日時：平成 18 年 6 月 17 日（土）9:30～16:00
2. 会場：静岡市役所 17 階 170 会議室
3. 提案団体：10 団体（自由テーマ部門：8 団体 課題テーマ部門：2 団体）

《課題テーマ部門》

ライフコーディネート静岡

『「チルドレン・ハウス」へどうぞ～外国人住民の地域社会参加の仕組みづくり』

アジアを考える静岡フォーラム

『外国人の高校生によるビデオ作品作成と学習会』

《自由テーマ部門》

特定非営利活動法人花と緑の技術サポーター

『安全で安心できる街づくりのための公園樹、街路樹の診断提言と地域住民に対する樹木に関する啓蒙活動』

静岡県演劇協会

『広報しずおか「静岡こども気分」夏号』

海辺工房ひとで

『親子で ふれあう 海辺のいきもの』

ネクステージ企画室

『知って得する、市民のためのやさしい経済教室』

ライフコーディネート静岡

『男女のあり方を考える～中学生を対象にした家庭科特別授業「何だろう、自分らしい生き方って？」』

特定非営利活動法人しずおか創造ネット

『インターネットの「しずおか子育てマップ」』

パソコンわかばくらぶ

『こどもをインターネット・トラブルから守る～インターネットのルールとマナーをすべての小学四年生に』

特定非営利活動法人震災から命を守る会

『学校単位で地域住民と共にボランティア活動（家具転倒防止）をしよう』

4. 採用団体

自由テーマ部門： パソコンわかばくらぶ

『こどもをインターネット・トラブルから守る

～インターネットのルールとマナーをすべての小学四年生に』

課題テーマ部門： 該当なし

5. 選定理由及び講評

自由テーマ部門

子どものインターネットマナーの向上という課題についての的確に把握されており、他団体との連携の中で事業を実施するというところを評価いたしました。

ただし、子供たちに対するネットマナー講座は、すでに協働市場の方で採用されたものがありますので、先駆性とか、独創性に欠けますし、それだけを実施するのは協働パイロット事業にはふさわしくありません。例えば、他団体との連携を通じて、よりよい指導のカリキュラムづくりとか、マニュアルづくりといったところに取り組んでいただくことで、ネットマナー講座の広がりをつくるというように事業の組み直しを条件として採用させていただきたいと思います。市民生活課、所管課と協力して事業化するようお願いいたします。

今回、審査に時間がかかったのは、提案が素晴らしかったので一つに絞るのが大変だったということがあります。

特定非営利活動法人花と緑の技術サポーターのご提案は、樹木が倒れる危険性について、ニュースにも出ますし、審査委員の中で体験している人もいるため、緊急性はよく感じました。単に樹木を診断するというだけでなく、診断結果をどのように活かすのか、地域の人々をどのように巻き込むのか、あるいは啓発していくのか、というところに工夫があると良かったと思います。

海辺工房ひとでは、すでに実力、実績があります。ご提案では、狙いとして大人向け啓発を挙げていましたが、良い着眼点だと思います。市の役割として広報を取り上げていらっしゃると思いますが、他にももっと行政として協力できることがたくさんあるように思いました。また、大人向けというところと事業内容とのつながり薄く感じられたのが残念です。

ネクステージ企画室のご提案からは、行政が気づかないニーズを気づかせようという気持ちを感じましたし、その内容も大切だと思いました。しかし、ファイナンシャルプランナーという専門家のノウハウを活かすという活動なので、一時的にであっても無料で実施するよりは、有料にして継続的に取り組めるような事業化が必要ではないでしょうか。継続的に実施することで、行政の理解も得られるようになると思います。

ライフコーディネート静岡のご提案は、切り口よかったと思います。ただし、ワークショップの内容が専門的になるように感じたのですが、一回きりの講座でどの程度成果が上がるかが疑問でした。中長期的な視点でのプログラムづくりが必要ではないかと思います。

特定非営利活動法人しずおか創造ネットのご提案も、必要性は感じました。しかし、行政と協働するよりも、補助金を受けたり、民間協働での実現の方がよいものになるのではないかと考えられます。

特定非営利活動法人震災から命を守る会のご提案につきましては、すでに市が実施している補助事業と連携できればうまくいくのではないかと思います。また、ボランティアが作業されるので安

全性の確保についても工夫がいるのではないかと思います。

静岡県演劇協会は、ご提案の中で、採用されても実施できないとのことでしたので採点はしませんでした。今の広報紙は、様々な事業が整理されずに羅列されていて見にくいので、ターゲットを絞った効果的な広報ができないかという着眼点はよかったですと思います。

今回のご提案全般にわたり、協働する上での市の役割として、事業費の負担以外には広報が期待されているようでした。特に広報紙への掲載を希望される提案が多いようでしたが、広報にのせると必ず人がくるということではないということを考えてほしいと思いました。

行政は、すべての人に同じように広報しなければならないので、かえって届けたい人に届かないことがあると思います。誰に向けて、誰にきてもらいたから、どういう広報をするのかを考え、単に広報紙に載せればよいということではなく、市民だからできるということを考える必要があるのではないのでしょうか。

課題テーマ部門

課題テーマ部門は、「採用なし」の結果になりました。課題が「仕組みづくり」ということで、みなさん、企画を立てるのに悩まれたと思います。二つの提案ともに提案自体の面白さとか、計画の精度については、素晴らしいなあという評価だったのですが、仕組みにどうやってつながっていくか、ということが見えませんでした。課題に合っていないということで見送らせていただくことにしました。

ライフコーディネート静岡のチルドレンハウスは、初年度は子供達を巻き込んで楽しい場をつくり、交流を深め、その後、大人を巻き込んでいくということでしたが、第三段階の共生社会の実現までもっていくところで、どこまで仕組みとしてつくっていけるかが事業内容ではみえづらかったのが残念です。単年度で考えずに、今後、長く取り組んでいただければ仕組みづくりのヒントがわかるのではないかと思います。

アジアを考える静岡フォーラムは、これまでの長い間の実績があり、どのようなところに問題があるのか、どういうところにターゲットをおいたらよいか、現況把握や課題設定は素晴らしいと思いました。しかし、ご提案のビデオができた後、どのように地域社会への参加につながり、活かしていけるのか、というところが弱いと思います。協働パイロット事業以外の場所で、ご提案が活かせる場所があるのではないのでしょうか。